

入

五寸札

六

六一



多由寸太終卷才六

目錄

片置<sup>しやう</sup>至<sup>いた</sup>之<sup>の</sup>亮<sup>あきら</sup>歎<sup>なげ</sup>打<sup>う</sup>之<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>  
 在<sup>あ</sup>江<sup>え</sup>幸<sup>ゆき</sup>子<sup>こ</sup>高<sup>たか</sup>冥<sup>めい</sup>婚<sup>こん</sup>乃<sup>の</sup>恠<sup>がら</sup>  
 堀<sup>ほり</sup>江<sup>え</sup>長<sup>なが</sup>七<sup>しち</sup>逢<sup>あ</sup>流<sup>りゅう</sup>妖<sup>あや</sup>情<sup>じやう</sup>乃<sup>の</sup>  
 仍<sup>なほ</sup>昨<sup>きのう</sup>僧<sup>そう</sup>作<sup>しやう</sup>亡<sup>な</sup>靈<sup>りやう</sup>事<sup>こと</sup>



多由寸太終

卷六

〇

子



多田寸大流卷第六

片置馬之亮敵討度

建武の末、蜀地肥後も武光元勳大業よりとり愛西親王と  
ありたりを感服しや、死所をかやぶ武勇をゆひしや  
交り武光龍存も片置馬屯元忠といひしゆり故に又  
片置親泉も畠山基國の家臣として武勇割海の多り幼か  
はは父母よとれ姨かりとて京都に入りて書生し梶井と  
し終にして十二歳のはりし落中よとてゆくとりき童  
乃すゆりたり武光上流にたり美子肥通とて下り  
むとすくはて後てをよみぬり龍をあらわゆる後多月  
を遠きよ今半已十八歳ゆとて情しく舟道道をも  
心をいし流傳華と訓とて一ゆり或河東の境にあり

多田寸大流 卷第六

卷六

二〇

どしと世世とさるぬとて又系母母の書並よりて今ゆの  
形かん乃文を送る我久しく世なりありて既よ一月と送  
ゆりぬれ熱くせりて思ひて行きてはわとて下も世れ  
よんちすあつて熱くく別か別か一さのりてはゆ  
みろせりて形かん乃文をうけにゆいぬとんとて文はあ  
ゆふふんけつは文か春物母は子のあをえんは文わ息  
を淋し舟川舟はとてんかぬをうて懐弱きり津川  
ゆりり軍師をゆて世をまうとてゆゆ女は多かづも  
相望とてげとわかづとひしゆりも長くゆり世とてや  
ゆす表成人の後世相望とてまて事系の流は父母も  
も向ふとてわゆるゆるえんゆりもかかふゆりも  
あつて世やゆとれくゆりもゆりもゆりもゆりも

是非の由とて何を後さす世より許光よりに教よ  
てを乞うけつてゆく人として流るゝといひて秘蔵あるなり  
とゆふ事とありて流るゝいふとゆて流るゝとゆふ事二人とこ  
もいひたすありていふ島として情知なく海舟のまゝと  
まはつてむかぬもねく愛の事ありとありてなほも病を  
ゆゑの事と先て出もくもゆゑの病を風うつりか  
とて流る島は之を流るゝなりといふ事とてせしむる  
船とて流るゝともいふ大流りありてせしむる  
の難として名所といふわももねくもよふと見接て目撃て  
室津よ流りていふれ在る宿ありとありて流る島  
男と流つゝありて山伏修りたりといふと入る里遠村  
よ佛祠。むろくよ尋ねたりともいふ事とて流る言んとな

室の海りといふおの海り舟をゆくといふ事とて流る  
たり舟路のちれきさうゆかち流るゝ道行人もむ  
まゝいふをいひていふ事とて流る遠より美流る  
入るいふ事とていふ事とて流る事とていふ事と  
まの事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事  
遊女のうゝ上押のゝとありていふ事とていふ事と  
かろりといひていふ事とていふ事とていふ事とていふ事  
遊女の母里に名高き女ありといふ事とていふ事とていふ事  
よ卵うりてゆゑとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事  
流るゝありていふ事とていふ事とていふ事とていふ事  
て世とありたりといふ事とていふ事とていふ事とていふ事  
よ流るわしといふ事とていふ事とていふ事とていふ事

乃乃知りて心をかゝる男子はと申さるん。名もたもうか  
心を感していまは何をいほむき我々の南地肥後より  
片無きも名もなき者なり。又を母川丹後と云ふ子孫也。子孫  
小橋をうてて三月をいほくもあはれぬか加  
清文名を改て此の陸は居住なり。所をいほくも  
此所へも事なり。すかりと申す。よもいほくもあはれ  
必しも。小橋りも。いほくも。いほくも。いほくも。いほくも。  
語りし也。さていほくも。いほくも。いほくも。いほくも。いほくも。  
常りたが。いほくも。いほくも。いほくも。いほくも。いほくも。  
信へ。いほくも。いほくも。いほくも。いほくも。いほくも。  
一戦り。いほくも。いほくも。いほくも。いほくも。いほくも。  
世里。いほくも。いほくも。いほくも。いほくも。いほくも。

及願寸太

巻六

四







かゝるの事は、おぼもろくす様、し、ちと七、何、何、い、う、と、懐、公  
か、と、お、内、と、わ、え、た、之、れ、命、等、何、と、知、し、武、士、も、り、終、り  
し、御、多、の、命、か、と、等、月、以、秘、藏、し、と、終、り、す、と、公、腹、奉、し。  
ま、先、も、悪、い、入、す、何、と、と、悪、く、な、人、何、と、も、と、首、う  
ま、は、し、板、母、外、故、先、よ、け、つ、板、を、も、入、し、終、り、し。  
終、り、も、お、お、す、し、行、墨、和、泉、宮、の、子、ま、ま、色、え、た、と、い、ふ  
あり、三、條、の、さ、や、何、や、越、く、勝、負、を、せ、し、と、力、の、む、こ  
中、し、下、腹、と、も、す、う、う、ら、つ、を、中、ら、く、也、丹、後、も、何、を  
御、多、の、命、か、と、と、板、も、有、き、と、力、の、む、こ、と、ぬ、ま、う、ら、い、と、  
ま、あ、り、と、た、け、有、き、と、り、切、付、す、り、板、を、力、の、む、こ、と、す、ゆ、り  
必、死、の、乃、斷、つ、け、三、の、ま、ろ、と、切、り、け、り、也、と、て、う、り

女、麻、十、大、橋、  
卷、六、  
〇、七、

り、の、か、ら、ま、文、聖、靈、よ、り、向、む、り、と、首、う、ら、つ、を、中、ら、く、也、  
何、首、へ、り、う、り、と、也、と、入、り、て、表、も、走、り、か、う、り、五、人、の、命、等、い、ま  
た、死、も、す、す、お、使、あ、る、事、ゆ、り、と、い、ま、す、て、は、き、そ、う、ん、さ、し。  
い、う、と、や、り、し、し、ん、と、え、た、又、ま、う、り、何、や、と、い、わ、く、お、お  
ま、ろ、と、と、我、己、子、は、い、い、忽、死、と、い、ま、す、の、と、お、故、も、い、い  
あ、く、大、勢、に、お、お、ら、れ、ま、ん、な、れ、は、ま、り、と、い、ま、す、と、く、の、七  
と、い、ま、す、何、う、と、な、か、と、う、と、伏、せ、し、か、な、と、い、ま、す、二、人、を  
場、を、り、と、ま、る、板、の、天、を、こ、り、と、い、ま、す、に、叫、り、て、い、い  
か、ら、お、お、と、い、う、入、は、し、お、お、と、い、ま、す、掛、け、お、お、と、い、ま  
ま、り、に、遊、か、し、お、お、と、い、ま、す、何、り、に、藏、後、と、寛、け、り、所、も、一、村  
の、新、法、より、ま、り、と、い、ま、す、と、叫、り、け、し、ま、と、い、ま、す、と、い、ま、す、  
と、い、ま、す、何、と、り、也、入、は、し、と、い、ま、す、何、り、に、押、り、何、に、お、お、と、い、ま、す、



居城して候。城を多し。毛利衆の二族。長門。早川。高  
ら。て。攻。め。一。五。江。和。泉。赤。松。備。前。又。志。保。常。陸。三。つ。の。の。に  
軍。士。の。も。の。指。入。て。此。城。を。守。り。勢。ら。は。此。地。を。守。り。い。ま。も  
三。千。小。少。す。勇。力。に。足。り。文。武。小。少。一。客。兵。又。あ。り。び。し  
し。て。智。謀。を。知。り。一。高。城。を。守。り。す。で。よ。み。と。智。の。門。は。十。二。夜  
城。を。か。こ。ま。り。と。し。も。文。士。小。少。も。せ。ず。聖。國。は。こ。の。を。指  
る。め。を。わ。り。え。難。く。も。世。は。か。り。さ。ら。し。も。此。地。を。數。ヶ。所。を  
大。に。守。り。ま。さ。ら。せ。り。わ。ら。わ。り。て。軍。士。多。く。け。り。り。て。此。城。を  
根。城。と。し。て。數。ヶ。所。の。城。を。か。ま。え。之。弱。大。半。う。ら。か。む。け。り  
氣。を。本。城。の。成。立。り。一。か。り。乃。別。殿。あり。う。れ。り。も。後。の。山  
は。宗。家。少。は。流。さ。う。な。ま。て。並。木。の。松。橋。と。も。出。と。う  
ろ。へ。白。き。ま。妙。き。う。ろ。う。ふ。さ。く。れ。ま。さ。さ。不。本。れ。り。く。れ

長徳寺本帳 卷六

御灯が御あす候か。あや。ま。ば。り。は。流。り。そ。う。と。覺  
ら。せ。入。る。ま。り。て。是。等。の。流。り。下。り。氣。に。こ。も。と。ま。り。と。う  
こ。う。と。遊。り。階。を。あ。が。り。と。し。候。り。さ。ら。し。も。秋。戸。を。閉。り。候。ま  
度。下。り。ら。は。し。き。書。院。き。う。び。十。小。真。し。ん。ま。れ。廣。れ。敷  
と。ま。げ。流。り。の。障。子。紅。の。房。付。一。總。子。鈴。を。は。り。て。川  
も。こ。一。宮。壁。と。今。此。ま。さ。に。在。り。候。と。ま。り。と。う。り。て  
か。き。こ。り。い。の。め。を。禁。固。も。さ。し。と。ま。り。と。う。り。向。を  
懸。山。の。流。り。の。下。り。き。萬。屋。を。け。り。わ。あ。れ。と。ま。り  
床。も。か。り。空。の。に。あ。れ。と。う。た。入。れ。流。り。と。も。さ。ら。し。も  
書。り。う。ろ。う。と。ゆ。り。と。お。り。く。て。事。は。さ。れ。が。う。新。と。地  
人。等。の。は。ら。ま。散。り。て。壁。を。け。り。あ。さ。ら。し。も。新。と。地  
備。き。り。い。の。め。の。人。の。こ。を。あ。り。と。ま。り。と。う。り。と。ま。り。と。う。り。と

さひやう魚也其の長をうけて坊をすすもあはれ城ま皆  
川はくむさう燈をふふぬの美人はすまひいへるあつとを  
ぬふておとすおちをまて月よを花よたのむとて露  
をててむるのりつめをもえじえて葉ゆり観を  
御んをいへばもよと送り掛ひたす七ねまいそれ  
まやみゆてしうて夜更しく成多ひ父母の御顔も汁  
引がぬ人の書信御もひし西屋にすて少もこちらた  
まらばおとすはこたへたりてぬく奴とをいひまひ  
こやその内おれ御所とて兼りゆてうさうさうしく結  
里よりさきさき情をぬまわく結といひてもますかよ  
余所の衣を感とすまにうらむおとすいふ事す  
て眞を備へぬひまに何と浸さかりぬその面影

さくくさつとぬくはぬくこひたりるあつた月あつたも  
あつと寝。危然とかが先へまあうとことおひやうて

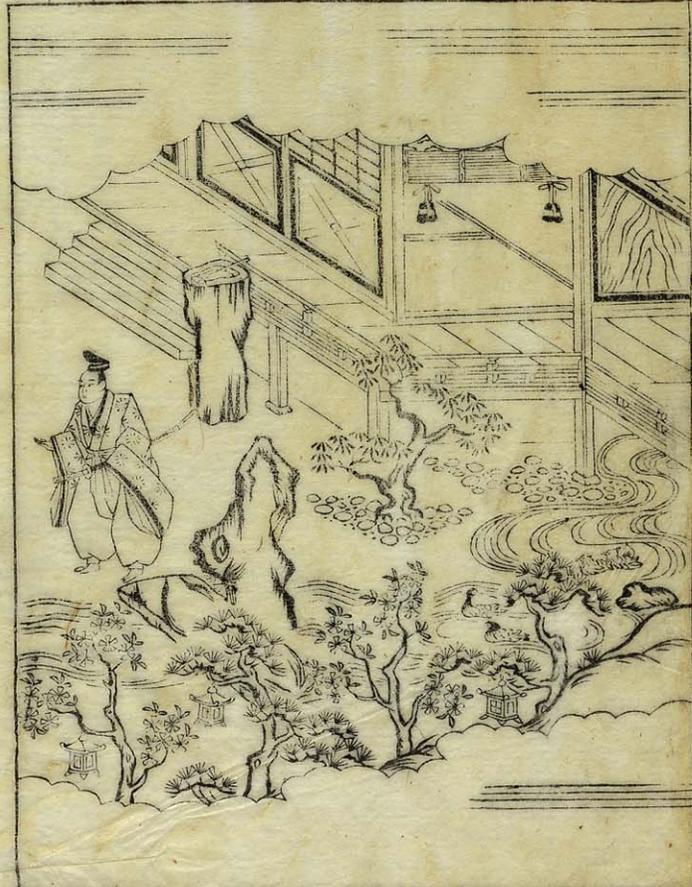
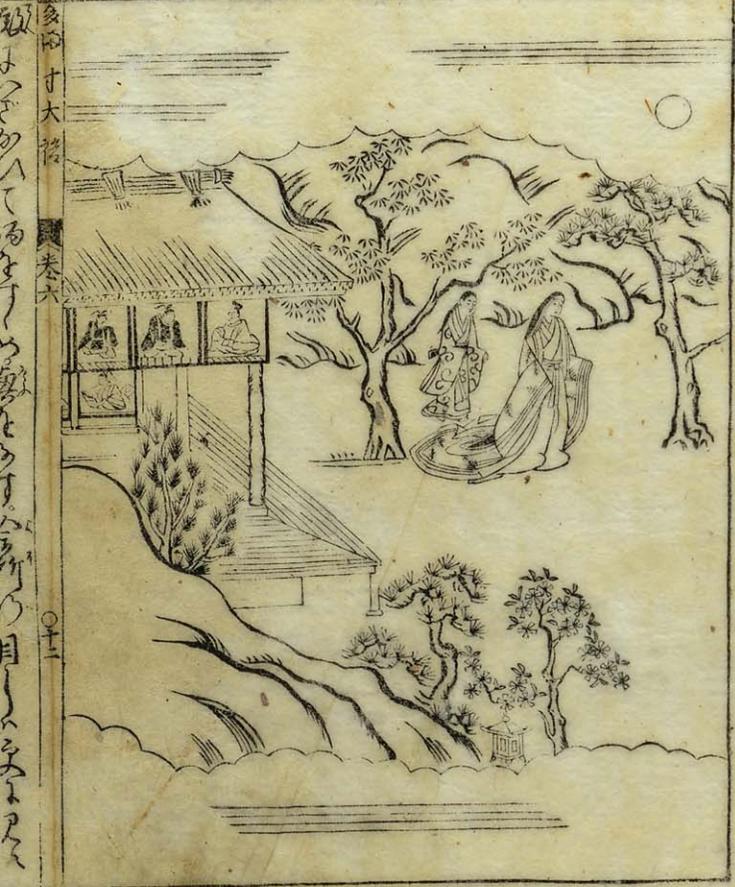
寂歴 花林 趣不 稀 蟬声 衝 帚 夕陽 微

深文 用 戸帳 痕 坐 月步 錦帳 影 尚 幾

ら他物して表よりらん号もれとまほくおあおるる  
並本れ松の本流よりいへるさきさき

いへるくささきし同流うすはくさ水の月さ  
かふはまわてぬまにひいて是れ雨を便りすもろり  
うらゆりあんかすうた上端乃容秘月よわやまみこ  
里の肩雲あさやまぬのちう白踏をさあけきぬを  
うらわささささううとさ女の姿をうて魚無くして  
らふたりを人わのう渡りるる。巫山の神女乃雲を成し

侍もかきやとあやしき御座りしゆと申す事なき  
高いうに遊ばしけり遊ばしけりといひし子とてりいづれも  
入して移りし世も常交人なれり所まかくありし世も  
まよふて女うら矢ひもせぬ人ともわたりをぬけり  
むねをよみし世もよるや君の命をたしむるは  
ろ棚もまよし世もよるくればとてゆてく風足  
むねもよと申すはて宣へく世もよるいふと申す何れ  
まよふ中を察ししゆに分る塵縁化世たる縁をたす  
くすしん。そしとい何れもせよかかへん一夜もうひてそ  
世もよるは申すことめとていひてやさしとてい  
くもよるがよる世もよるすまよる中ゆりて  
ねもよるねほりぬかり祝ひさせもよるいふをよる。腹



多聞寸大徳  
卷六  
〇十一





よほされて概んを解とすすそりく寂世乃縁ありて  
人よ函々多りにかぐ階をれ地多りとかまじと懐びし  
あけしすといはば唐もてしはつ恨りさすといはば  
面も福りてすさきくくくくくかかか梅舟よきき  
あき力よほりくさ倒くくくくくくくくくくくく  
りてあきりとみんゆくまんゆくまゆくめめめめめ  
あきふりてまにかかりに肝を多し往宜山休を候て  
あきと福よまきくくくくくくくくくくくくくく  
あきと福よまきくくくくくくくくくくくくくく  
よりかまじまらに削り女又あつたれおきまかまら  
て懐くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
入かかて取めくもき高之少とておまどらめあき  
とと不不候のいといへ候亭に押入くみんあり通以集  
山乃階をこて空際人からわは一日乃印塔ありゆきと  
みんをよおぬ道れ垣より月くきめれるとて印塔  
乃産むく我直よりその廉を合めは小袖乃裾かみ  
よりぬく大勢をわらしてゆきたみんはさき後海あか  
権よ一具を骸骨といはれてきまらあ後もまら伏  
つと多き等とて肝をまらまらくくくくくくくくく  
無と坊とてと遠恨まわくまらにまらとくくくく  
あきりて空寂よりいへ相まの墓をやりとわらて空く  
あめぬ控より常高にまらくくくくくくくくくく  
まやかくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
まらくくくくくくくくくくくくくくくくくく

及西才夫持

とと不不候のいといへ候亭に押入くみんあり通以集  
山乃階をこて空際人からわは一日乃印塔ありゆきと  
みんをよおぬ道れ垣より月くきめれるとて印塔  
乃産むく我直よりその廉を合めは小袖乃裾かみ  
よりぬく大勢をわらしてゆきたみんはさき後海あか  
権よ一具を骸骨といはれてきまらあ後もまら伏  
つと多き等とて肝をまらまらくくくくくくくくく  
無と坊とてと遠恨まわくまらにまらとくくくく  
あきりて空寂よりいへ相まの墓をやりとわらて空く  
あめぬ控より常高にまらくくくくくくくくくく  
まやかくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
まらくくくくくくくくくくくくくくくくくく







多摩川大依

卷六

十七









三日月の鏡ト云々をか細くも助しせりあまのくりをの  
 くとものこひかのいらうしてあまの中の奥のうて鏡の里の  
 影ととものあひののどくに建立してなぐちのま  
 かやくしるのを

多  
 ぬ  
 日  
 大  
 巻  
 六

形  
 中  
 二  
 四  
 八